

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)乙第 22 号	氏名	Graciela Mabel Russomando Alvarez
学位審査委員	主査 平山謙二 副査 由井克之 副査 森田公一		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、中南米に流行して大きな保健衛生問題となっている昆虫媒介性原虫感染症であるシャーガス病の母子感染に対する有効な診断治療プロトコルの確立をめざしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 パラグアイの高度流行地域の二つの基幹病院において 2000 人の妊婦を対象に感染者をフォローし、新生児を半年以上にわたって観察し、古典的な顕微鏡による原虫検査、2 種の抗体検査、および長崎大学との共同研究による PCR 診断法を並行して行うことで母子感染児の確定診断のための適切な方法と治療時期を特定しようとしたもので研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、PCR 診断が出生時の検査として顕微鏡による原虫検査に比べ信頼できること、6 か月以降の IgG 抗体の上昇が母子感染の確定診断と一致すること、ベンズニダゾールによる治療により乳児の抗体価が速やかに低下すること、生後一年にわたり感染児の IgM 抗体産生が著しく抑制されていることが明らかとなった。これらの結果をふまえて種々の保健システム環境の条件に合わせた治療プロトコルの在り方について考察しており妥当である。なお、この研究とその後のより大規模なオペレーショナルスタディを施行した結果、パラグアイのみならず中南米における母子感染対策の基本的なプロトコルが完成したことは高く評価できる。</p> <p>以上のように本論文はシャーガス病母子感染対策に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			